

れたダンチク (*Aruno donax*) 群落でも3♀を叩き網で採集することができた (図3).

3. 集落の端にある初田神社の建物に静止していた (図4). 島の人に尋ねると, 初田神社は瀬戸大橋ができるまでは1, 2の採集地近くにあったそうである. 橋桁設置の際に現在の場所に移動したとのことである. 神社周辺には本種が生息しそうなススキ, ダンチクの群落があり叩き網で採集を試みたが, 発見することはできなかった.

今回報告した岩黒島は従来から知られていた分布地とはかけ離れている (近い産地は本州では山口県, 四国では愛媛県愛南町). ウスアヤカミキリは飛翔することのできないカミキリムシであり, 分布拡大は海流によるものが主因と考えられている. 自然分布ならば瀬戸内海を西から東に流れる海流によって運ばれた可能性が高い. 本種の採集後, 坂出市にあるすぐ北の櫃石島, 南の与島 (両島ともに瀬戸大橋の橋桁のある島), 埋め立てられ四国本島と陸続きとなっている沙弥島・瀬居島での調査を実施したが発見できていない.

人為的な分布拡散も考えられる. 坂出市史編さん所への問い合わせたところ, 「人家の屋根に使用された萱と呼ばれるススキの島外からの持ち込みはおそらくなく, 島内での刈り取り消費だった

のではないかとのことであった. ただ「船底に着いた貝類や海藻を燃やしたり燻したりした「蓼草 (たでくさ)」と呼ばれるものにススキが使われており, 持ち込まれていた可能性は否定できない」とのことであった.

ウスアヤカミキリは愛媛県では絶滅危惧II類 (VU) に指定されている (田辺, 2003). 岩黒島の生息地は愛媛県の生息地よりさらに狭く, 環境の変化や採集圧による減少や絶滅が危惧される. また採集地は人の生活空間に非常に近い民有地である. 採集時にはこれらの状況を考慮し行動することを願いたい.

謝辞

島へのススキ類の移動について, 坂出市史編さん所の唐木裕志所長には丁寧な指導を頂いた. また文献入手については, 宇都宮靖博氏に協力頂いた. 感謝したい. なおこの調査は坂出市の市史編さんの動物調査の一環でなされたことを付記しておく.

引用文献

- 田辺秀男, 1992. 写真で見る愛媛の昆虫, 愛媛県文化振興財団:73.
田辺秀男, 2003. ウスアヤカミキリ, 愛媛県レッドデータブック, 愛媛県県民環境部自然保護課:149.

(2014年7月14日受領, 2014年8月28日受理)



Leschen, R. A. B, R. G. Beutel, and J. F. Lawrence (eds.), 2014. Handbook of Zoology. Arthropoda: Insecta. Coleoptera, Beetles. Volume 3. Morphology and Systematics (Phytophaga). Walter de Gruyter, Berlin, Germany. 675 pp.

1巻 (2005年), 2巻 (2010年) に続き, ようやく3巻が出版された. コウチュウ目は4巻が最終巻と聞いていたが, 本3巻により科別の解説は全て終了したことになる.

本巻では, いわゆる (原色日本産甲虫図鑑の) 4巻の虫, つまりカミキリムシ科からゾウムシ科までが扱われている. 各科の第一人者が執筆しており, カラープレートこそないものの多くの図が

掲載されており, 見ているだけで楽しめる. 科群の考え方は研究者によって見解が分かれるところであろうが, 最新の知見に基づいたものになっている. 巻頭には McKenna によるコウチュウ目に関する分子系統解析論文のレビューがあるが, 論文の紹介に終始し系統仮説の検証など突っ込んだ話になっていないのは少し残念である.

出版社のHPによるとハードカバー版が349 USDで購入できるほか, アマゾンなどでも入手できるようだ. 決して安い出版物ではないが, これらのグループの分類を行う研究者は避けては通れない教科書であろう.

(吉富博之 愛媛大学ミュージアム)